Ｊ－クレジット制度について
（データ集）

2023年4月

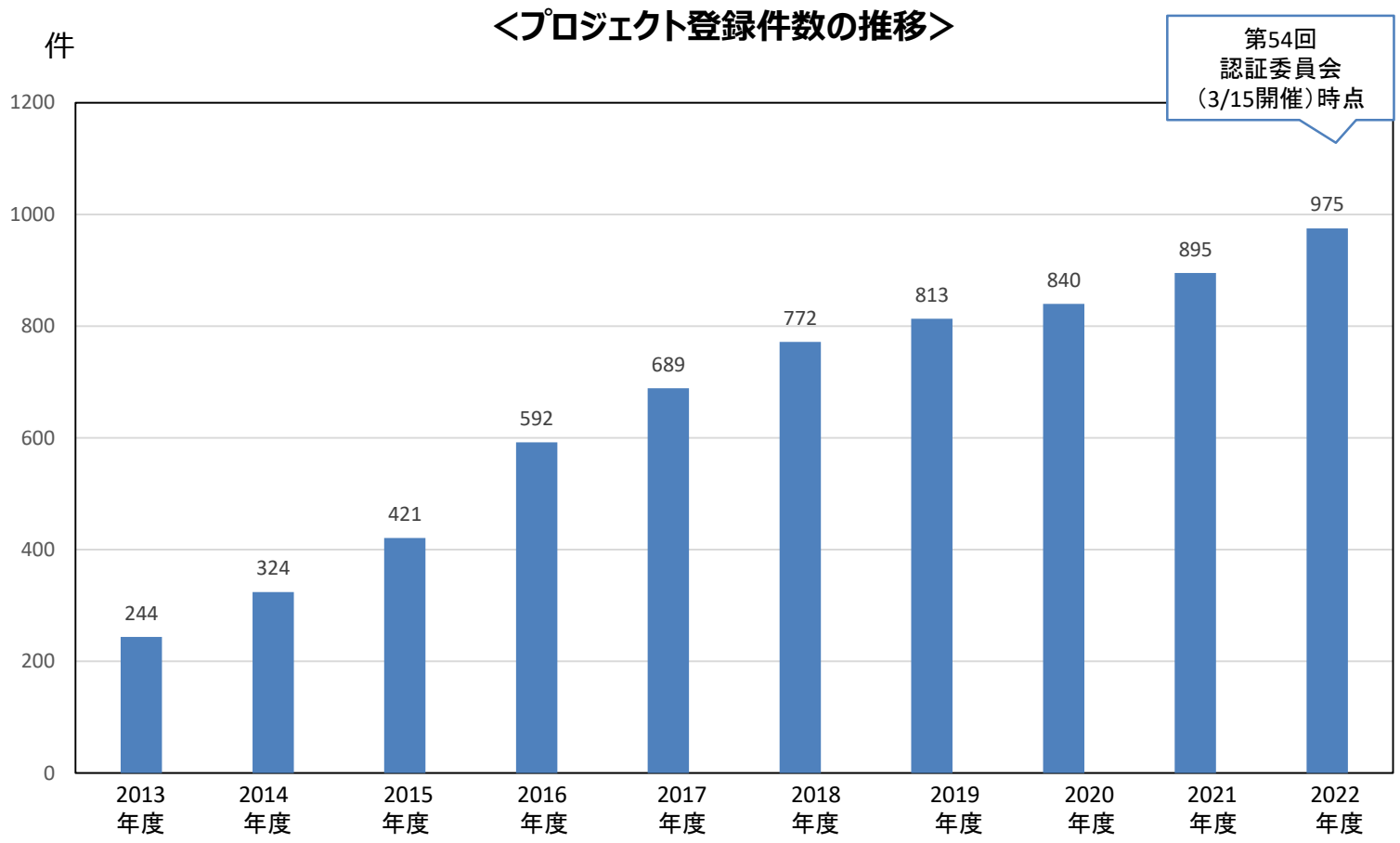
Ｊ－クレジット制度事務局
（みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社　サステナビリティコンサルティング第１部）

- 登録・認証状況
  - 移行含む（国内クレジット制度及びJ-VER制度からの移行PJを含む）
  - 移行除く（J-クレジット制度で登録されたPJのみ）

- クレジット売買、活用

プロジェクト登録の状況（移行含む）

・Ｊ－クレジット制度登録プロジェクト件数 (移行含む)：**975件**

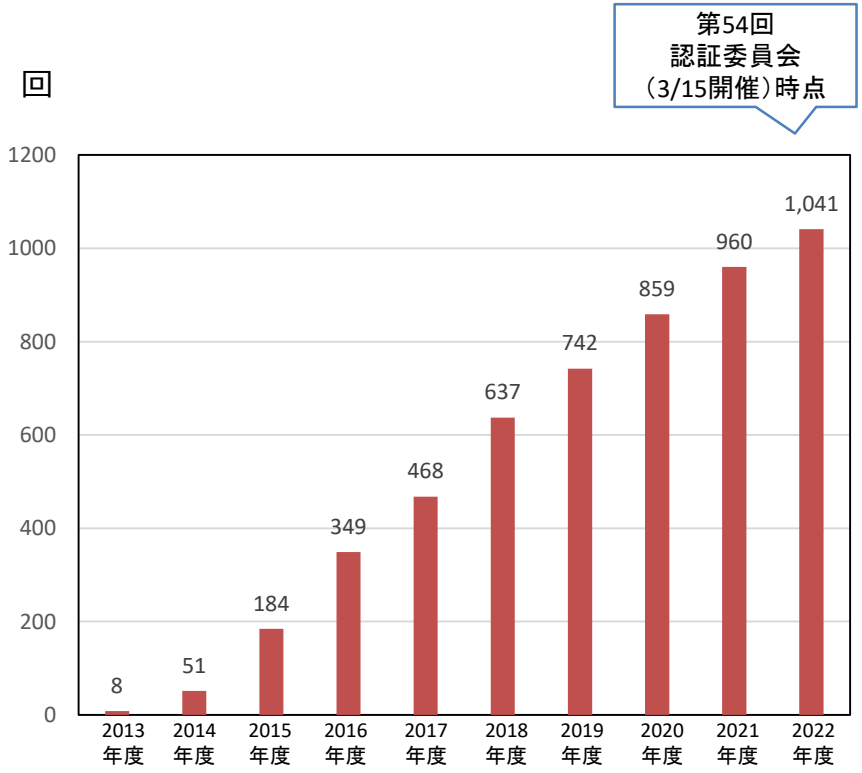


2023年3月15日時点の実績

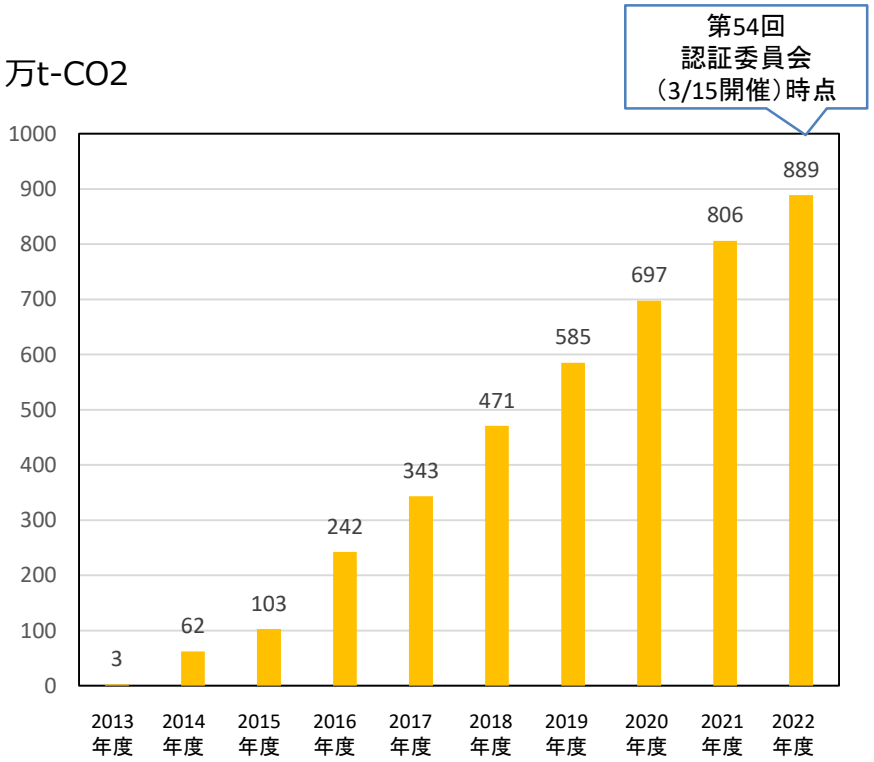
クレジット認証の状況（移行含む）

- Ｊ－クレジット制度クレジット認証回数 (移行含む)：**延べ1,041回**
- Ｊ－クレジット制度クレジット認証量 (移行含む)：**889万t-CO2**

＜クレジット認証回数の推移＞



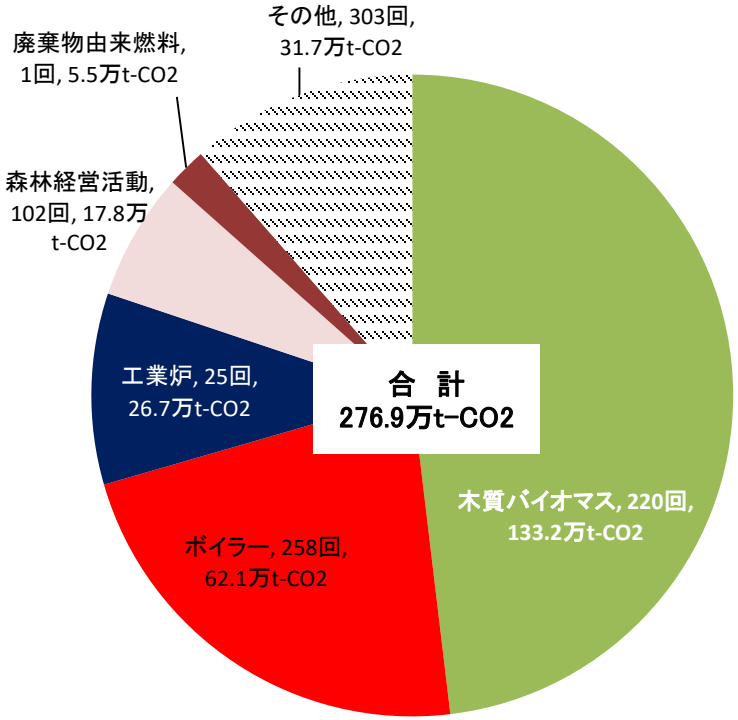
＜クレジット認証量の推移＞



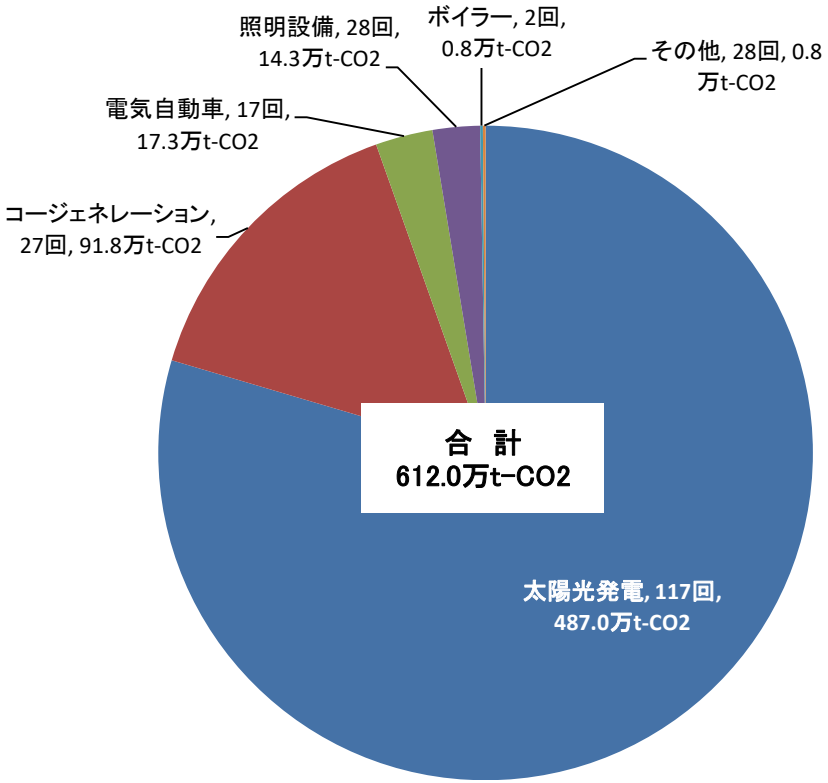
2023年3月15日時点の実績

認証クレジットの方法論別内訳（移行含む）

適用方法論分類（通常型）



適用方法論分類（プログラム型）

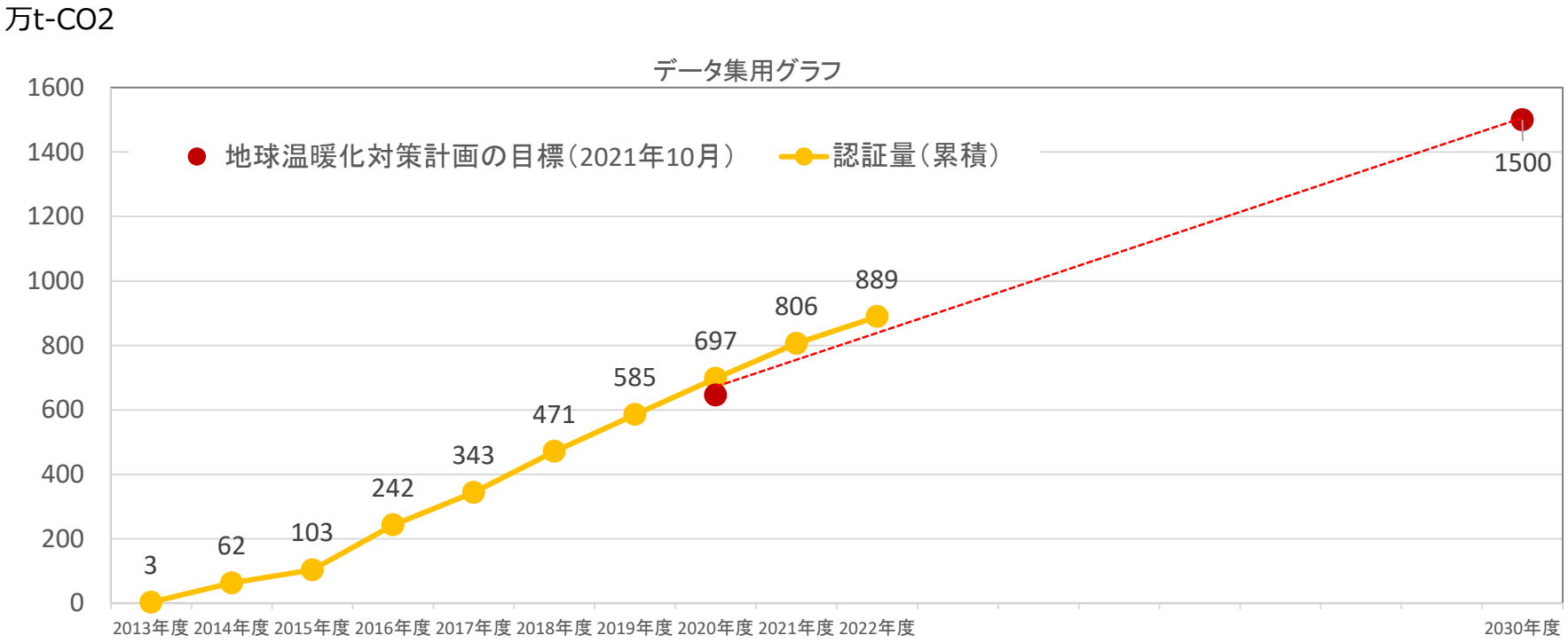


※各グラフの値は旧制度からの移行分を含む。

2023年3月15日時点の実績

地球温暖化対策計画の目標達成状況

- 地球温暖化対策計画において、Ｊ－クレジットの認証量に関する目標を設定。2021年10月22日に閣議決定された地球温暖化対策計画において、2030年度の目標については1500万t-CO2とした。



2023年3月15日時点の実績

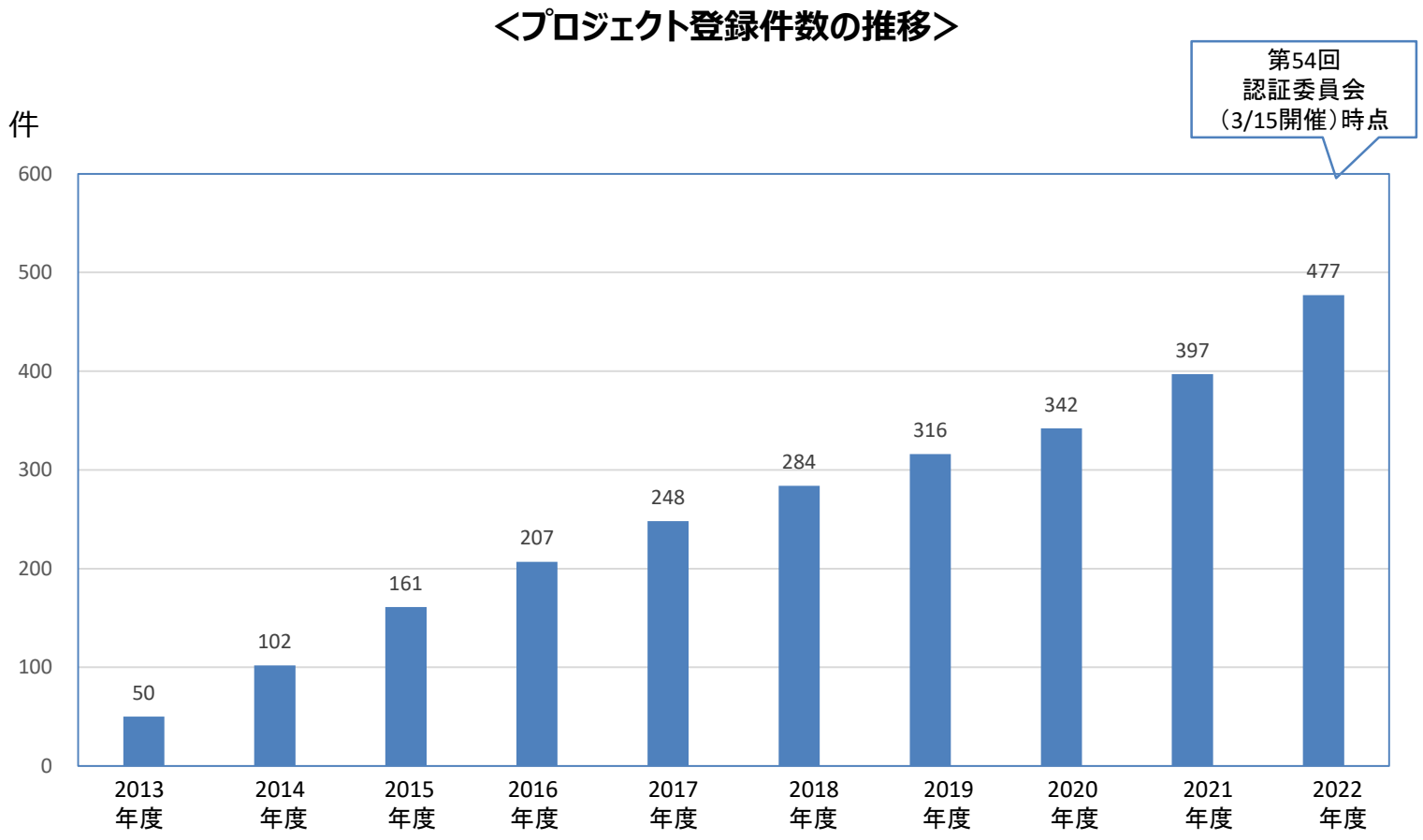
◻ 登録・認証状況

- ➢ 移行含む（国内クレジット制度及びJ-VER制度からの移行PJを含む）
- ➢ 移行除く（J-クレジット制度で登録されたPJのみ）

◻ クレジット売買、活用

プロジェクト登録及びクレジット認証の状況（移行除く）①

・ Ｊ－クレジット制度登録プロジェクト件数 (移行除く)：**477件**

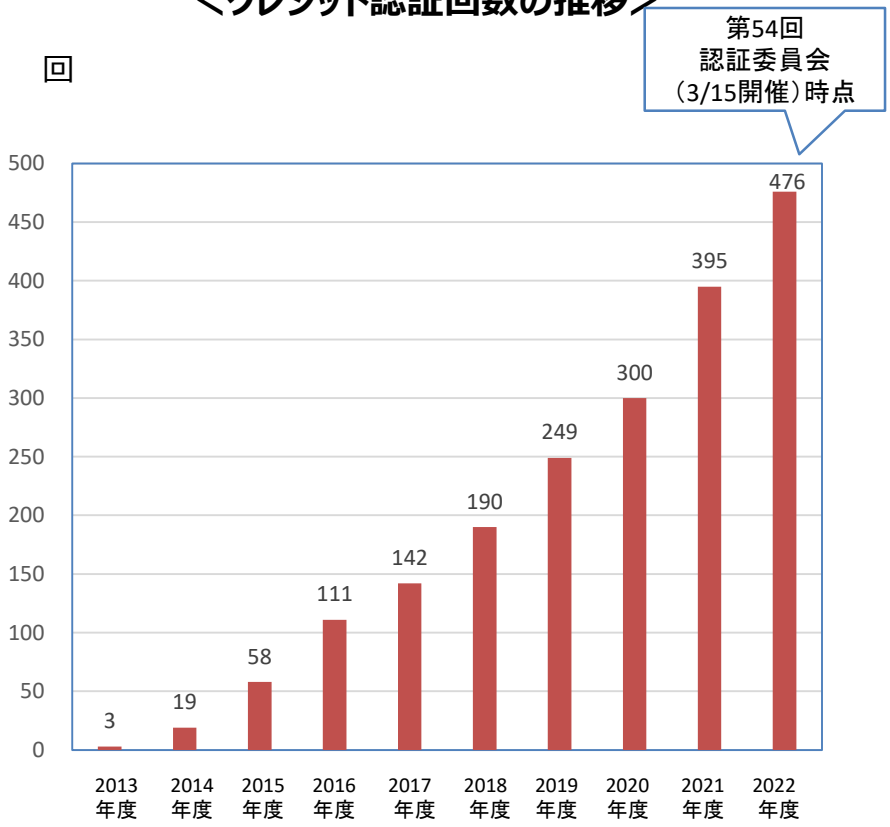


2023年3月15日時点の実績

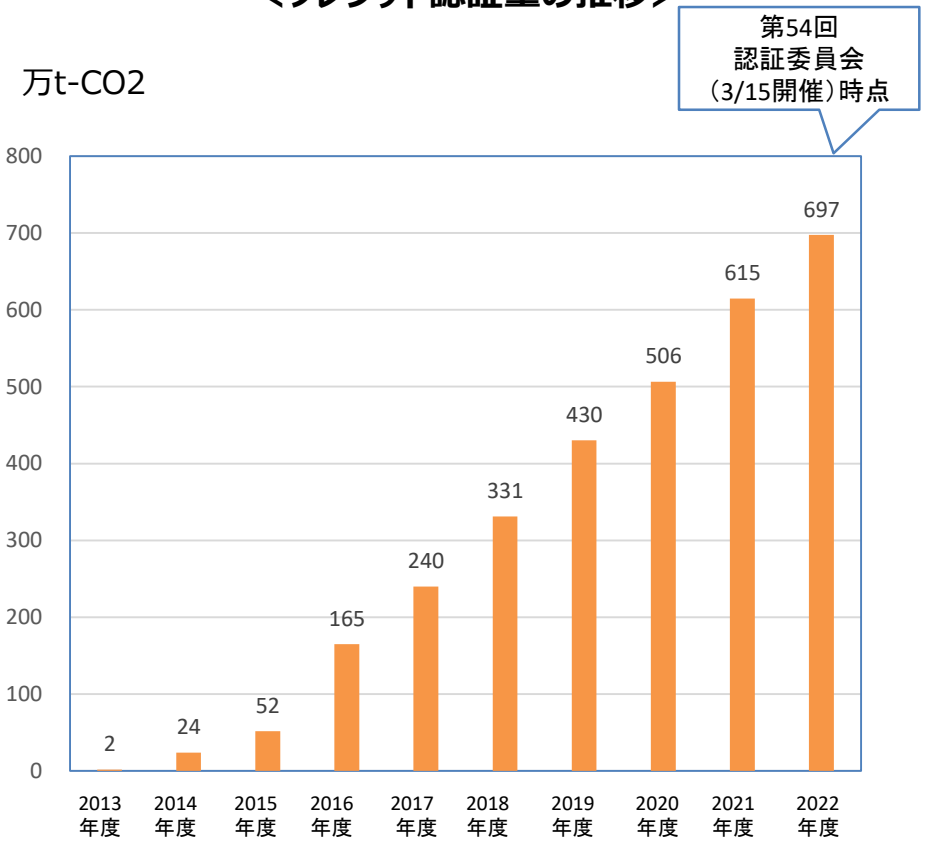
プロジェクト登録及びクレジット認証の状況（移行除く）②

- Ｊ－クレジット制度クレジット認証回数 (移行除く)：**延べ476回**
- Ｊ－クレジット制度クレジット認証量 (移行除く)：**697万t-CO2**

＜クレジット認証回数の推移＞



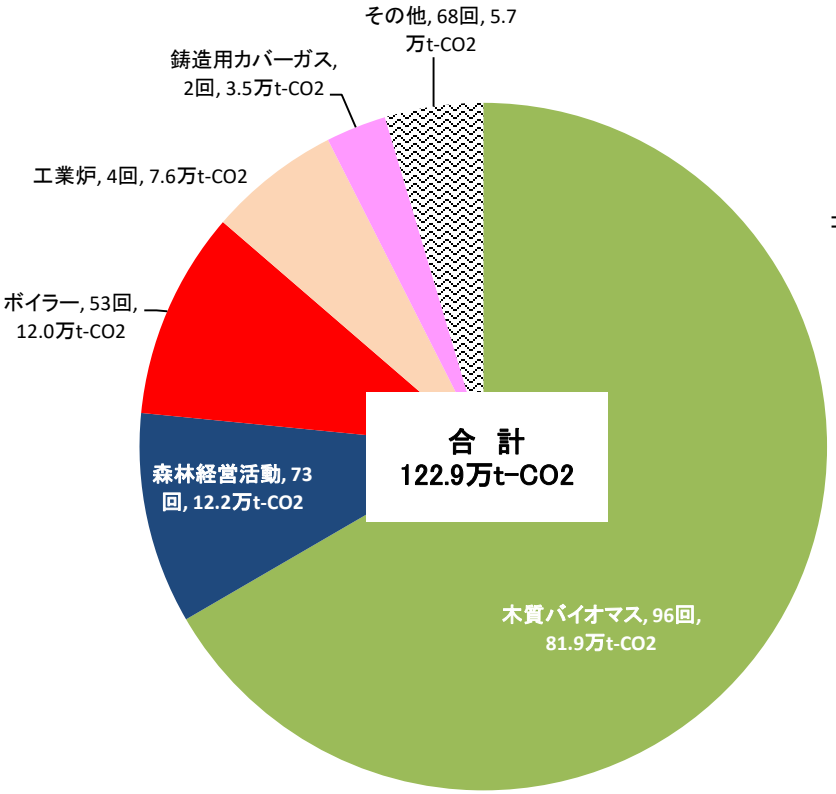
＜クレジット認証量の推移＞



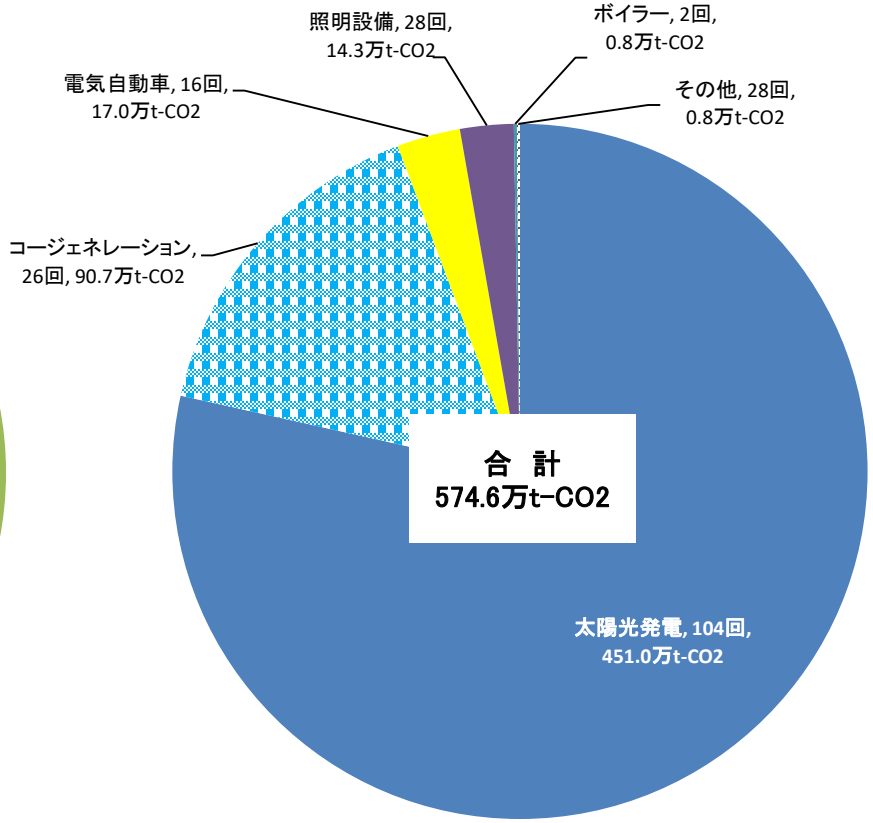
2023年3月15日時点の実績

認証クレジットの方法論別内訳（移行除く）

適用方法論分類（通常型）



適用方法論分類（プログラム型）



2023年3月15日時点の実績

方法論別審査費用の推移

(円)

プロジェクト種別	省エネ		省エネ		再エネ		再エネ		森林	
	通常型		プログラム型		通常型		プログラム型		通常型	
審査内容	妥当性確認	検証	妥当性確認	検証	妥当性確認	検証	妥当性確認	検証	妥当性確認	検証
審査費用の平均値※１	663,522	317,454	755,195	690,101	368,875	431,588	714,465	682,772	1,142,923	1,003,223
審査費用の振れ幅※２※３	510,621~ 863,515	173,333~ 560,945	557,287~ 998,654	503,333~ 818,739	214,546~ 463,182	140,000~ 1,002,374	474,060~ 943,833	450,439~ 954,214	698,823~ 2,026,032	562,923~ 1,984,558

※１：2020年度から2022年度の審査費用支援申請案件における審査費用の平均値。
※２：振れ幅の下限額は、当該項目の審査案件を審査費用順に並べた際の下位1/4にあたる審査案件の審査費用の平均値。
※３：振れ幅の上限額は、当該項目の審査案件を審査費用順に並べた際の上位1/4にあたる審査案件の審査費用の平均値。

- 登録・認証状況
  - 移行含む（国内クレジット制度及びJ-VER制度からの移行PJを含む）
  - 移行除く（J-クレジット制度で登録されたPJのみ）

- クレジット売買、活用

J－クレジットの入札販売結果

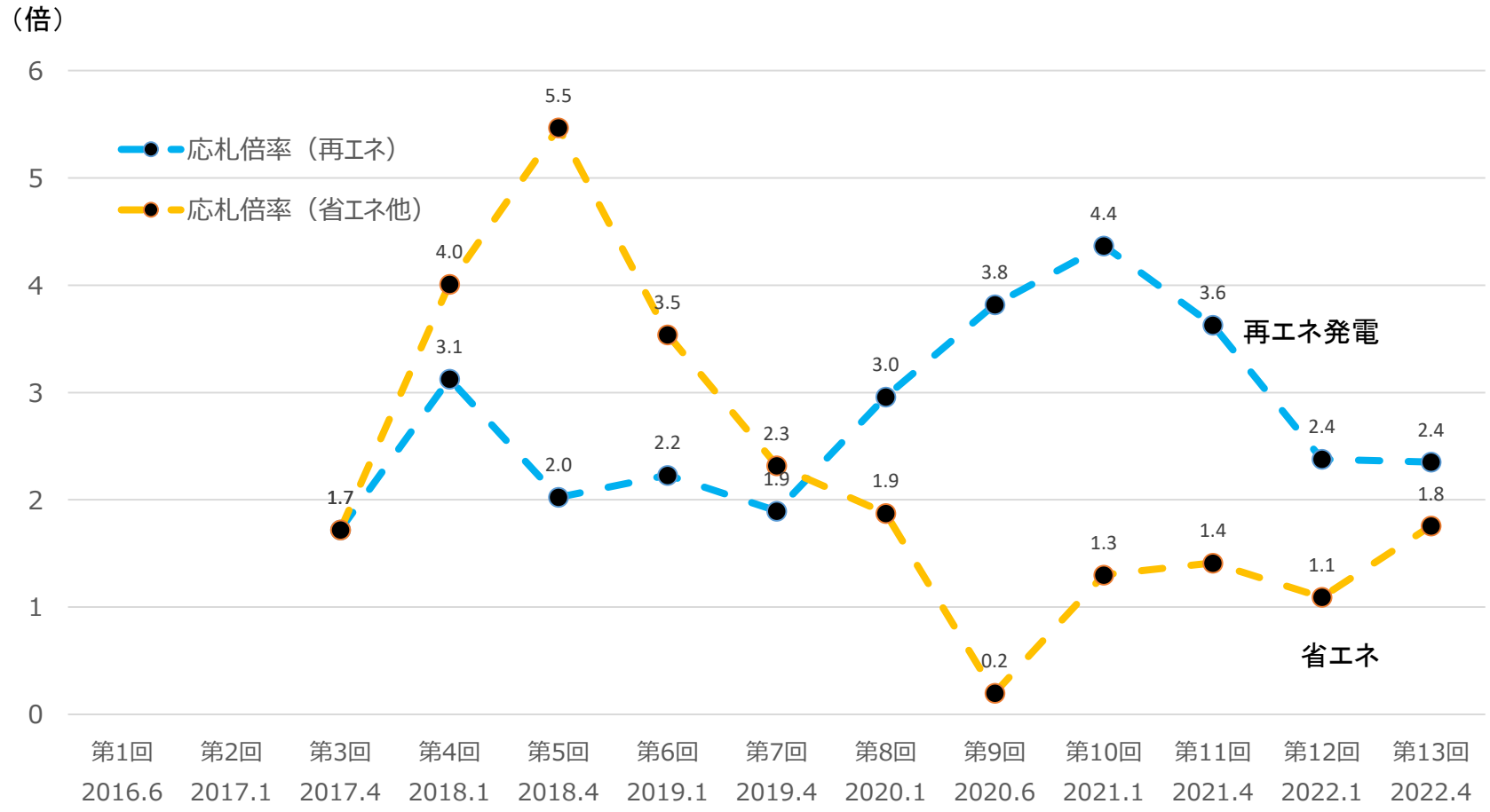
- J－クレジットの大口活用者向けに、過去13回の入札販売を実施
- 再エネ発電由来のクレジットがCDP質問書に報告可能になり、需要家の注目を集めていることから、第4回以降は再エネ発電と省エネ他を分けて販売

	開催時期	再エネ発電		省エネ他	
		販売量	平均販売価格	販売量	平均販売価格
第13回	2022年4月	200,000トン	3,278円/トン	100,000トン	1,607円/トン
第12回	2022年1月	250,000トン	2,995円/トン	24,305トン	1,574円/トン
第11回	2021年4月	200,293トン	2,536円/トン	100,000トン	1,518円/トン
第10回	2021年1月	250,000トン	2,191円/トン	100,000トン	1,500円/トン
第9回	2020年6月	200,000トン	1,887円/トン	0トン	落札なし
第8回	2020年1月	200,000トン	1,851円/トン	40,000トン	1,473円/トン
第7回	2019年4月	200,000トン	1,801円/トン	50,000トン	1,506円/トン
第6回	2019年1月	200,000トン	1,830円/トン	50,000トン	1,602円/トン
第5回	2018年4月	400,000トン	1,724円/トン	100,000トン	1,395円/トン
第4回	2018年1月	400,000トン	1,716円/トン	100,000トン	1,148円/トン

	開催時期	販売量	平均販売価格
第3回	2017年4月	500,000トン	908円/トン
第2回	2017年1月	500,000トン	1,594円/トン
第1回	2016年6月	1,000トン	510円/トン

Ｊ－クレジットの入札状況の推移（応札倍率）

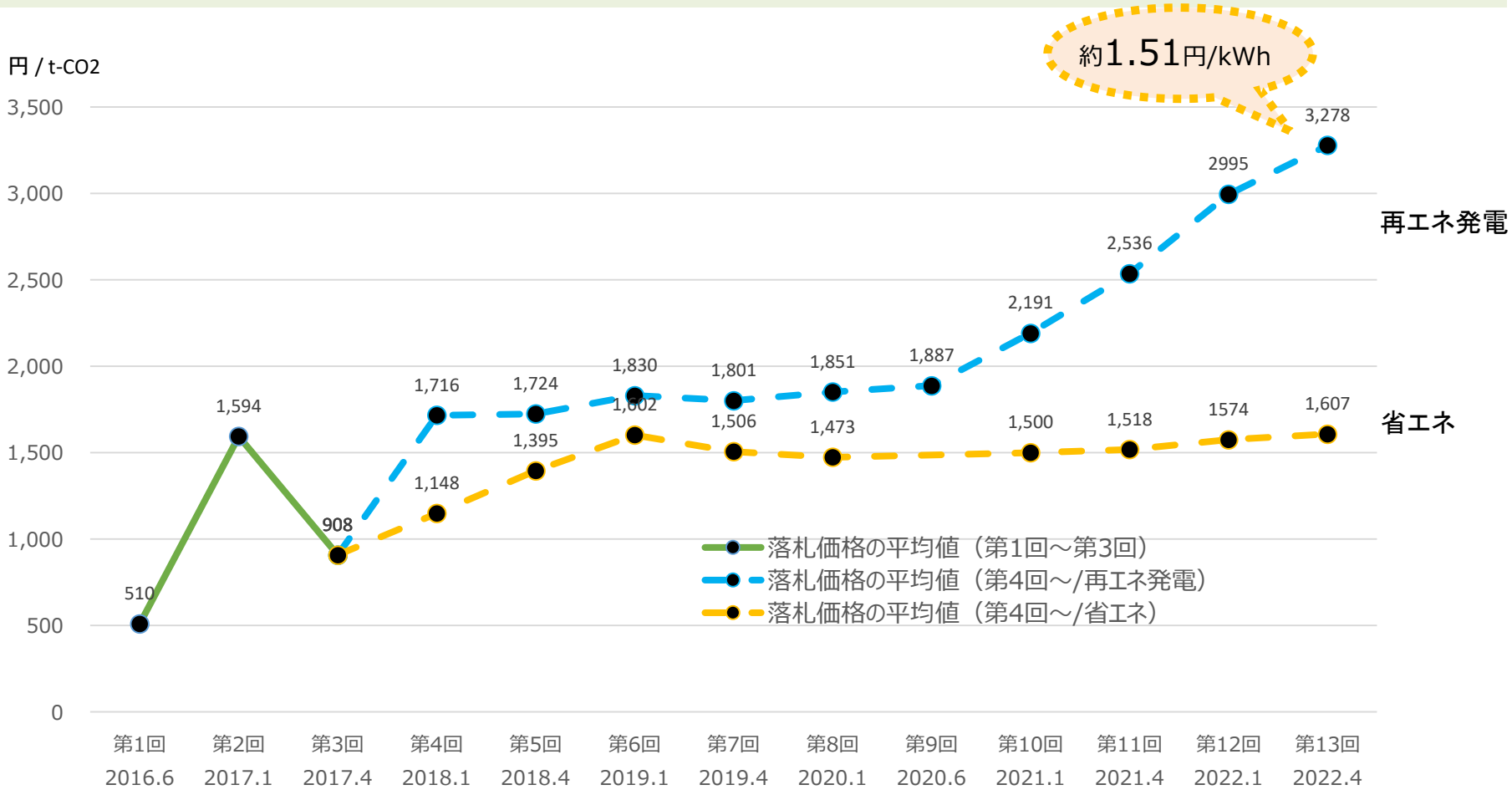
- Ｊ－クレジットの入札販売の結果推移を見ると、近年では再エネ発電由来のクレジット需要が高いことがわかる。



※第１回、第２回の応札倍率については公表していないためグラフには記載していない。

Ｊ－クレジットの入札状況の推移（平均落札価格）

- 需要の高まりに応じて、平均落札価格も上昇している。

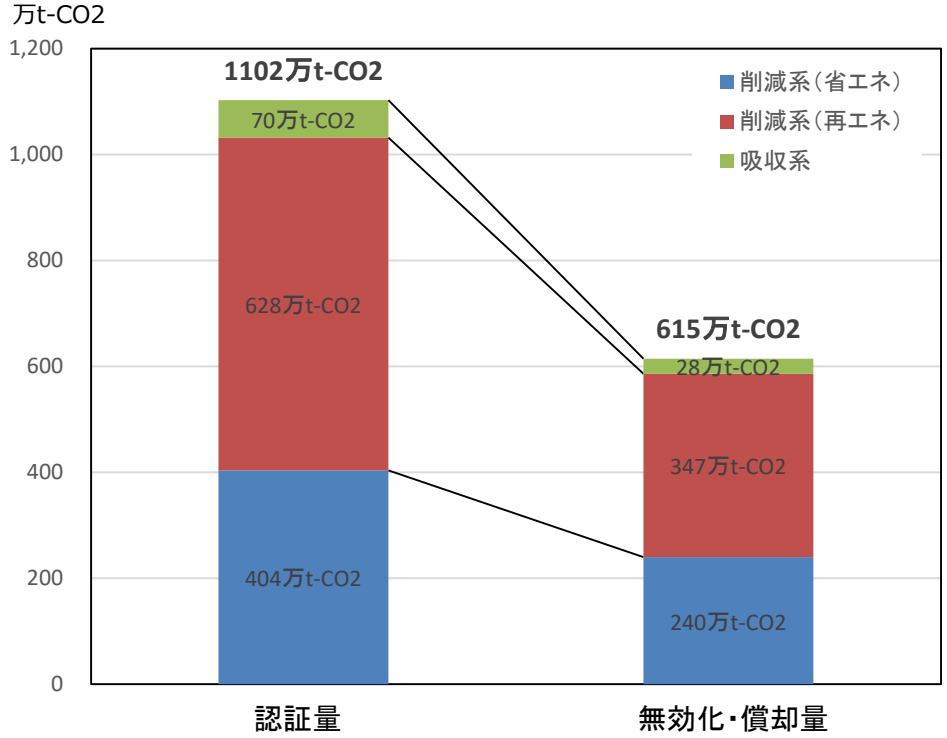


※平均値は、落札価格に当該落札トン数を乗じた合計を総販売量で除したもの。

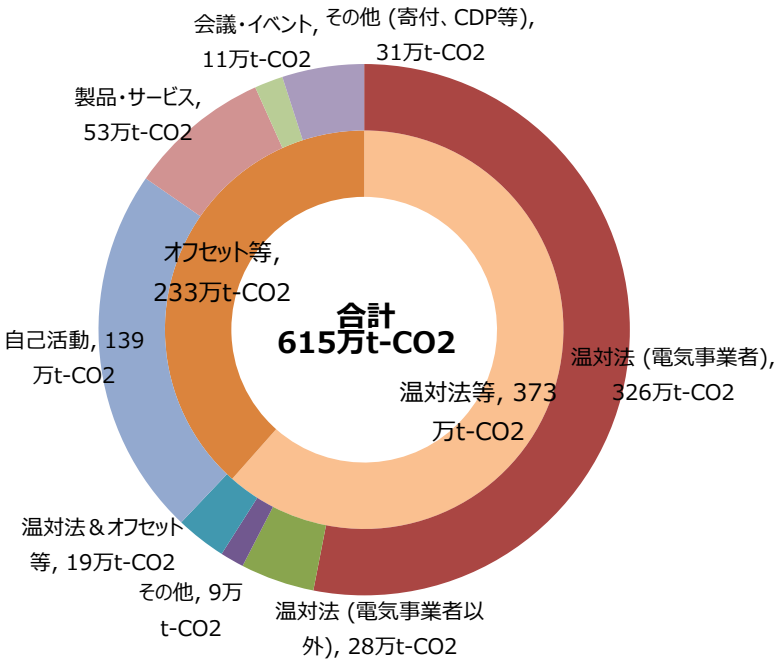
Ｊ－クレジットの活用（無効化・償却量）の状況

- 全認証量1102万t-CO2中、これまでに無効化・償却されたクレジットは、615万 t-CO2
  2008年度以降のＪ－クレジット、国内クレジット、Ｊ－ＶＥＲ全てのクレジットの累計。
- 削減系（再エネ）クレジットの認証量に対する無効化・償却量は約55%,削減系（省エネ）は約59%, 吸収系クレジットは約40%
- 電力の排出係数調整、自己活動や製品・サービスのオフセットへの利用が多い

＜クレジット種別　認証量VS無効化・償却量＞



認証量は2023年3月15日、無効化・償却量は2023年2月28日実績



2023年2月28日時点の実績

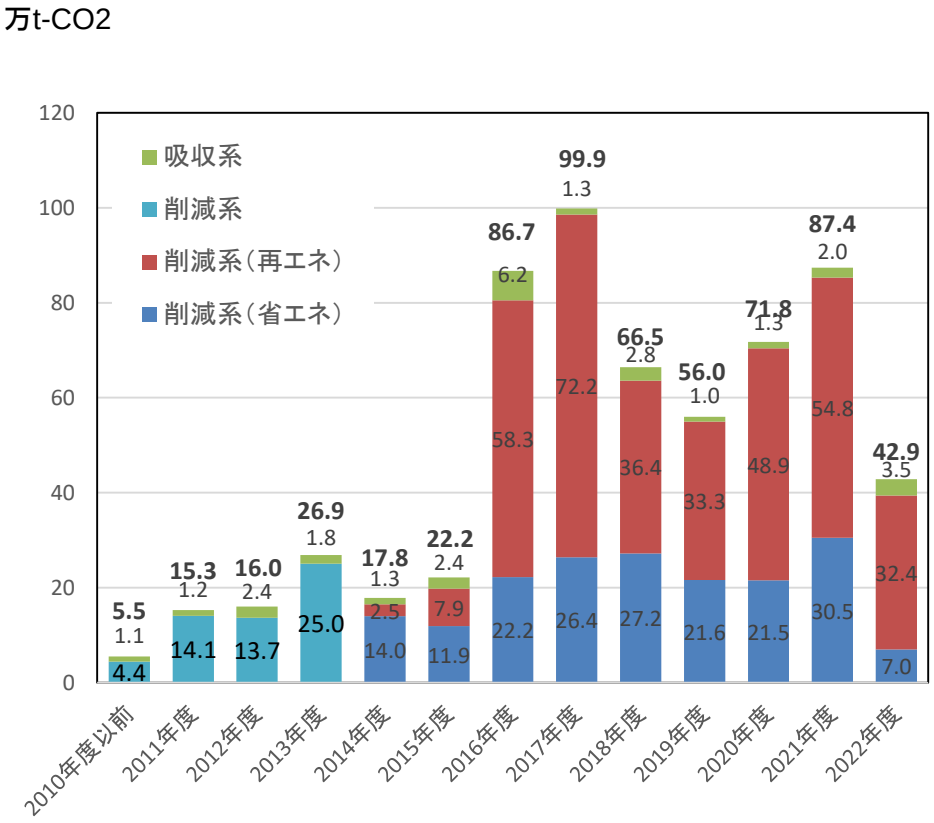
※ 2013年度以前の削減系の無効化・償却量の内訳はデータがないため、全て削減系（省エネ）としている。

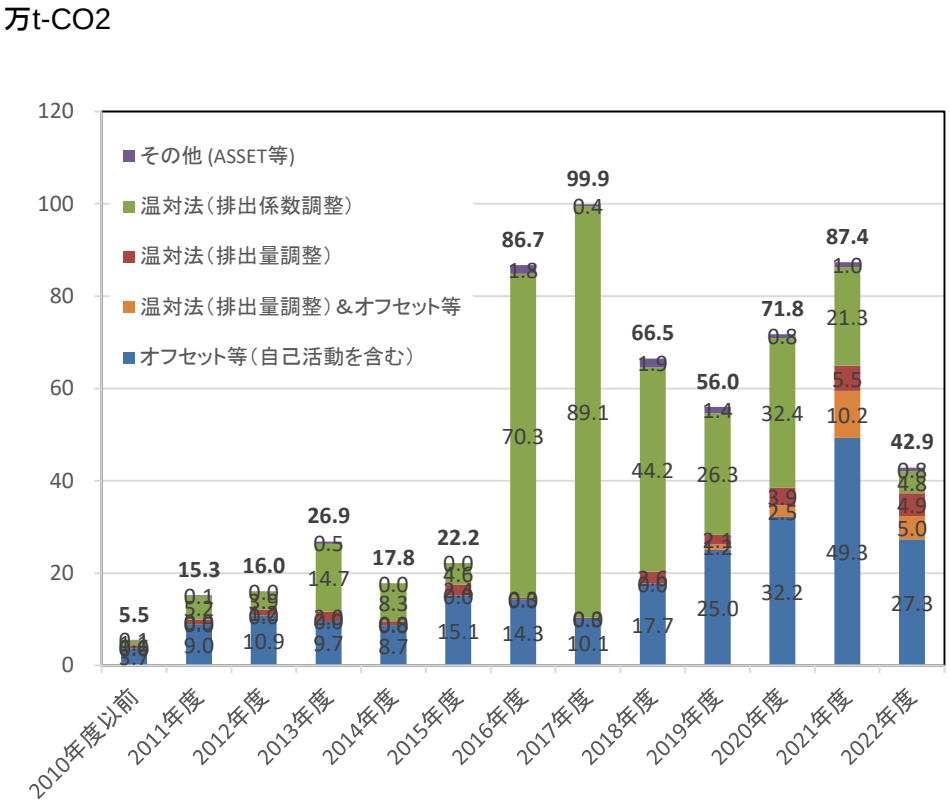
Ｊ－クレジットの活用（無効化・償却量）の状況

- 2016年度以降は「温対法（係数）」が最多だが、近年は「オフセット等」も増加。

無効化とは、Ｊ－クレジット登録簿上でＪ－クレジット、Ｊ－VERを無効化償却口座に移転し、それ以降移転できない状態にすることを指す。
償却とは、Ｊ－クレジット登録簿上で国内クレジットを無効化償却口座に移転し、それ以降移転できない状態にすることを指す。

＜クレジット種別・目的別　無効化・償却量の推移＞





2023年2月28日時点の実績

※2013年度以前の無効化・償却量の内訳は削減系と吸収系のみで区別されている。

改定・更新履歴

改定・更新日	改定・更新内容
2022/3/28	・登録・認証状況の様式を変更。
2022/5/24	・方法論別審査費用の推移を追加
2022/5/30	・第13回入札販売結果の更新
2022/6/30	・方法論別　プロジェクト登録及びクレジット認証の状況、登録プロジェクトの内訳 、認証クレジットの内訳（以上、第50回認証委終了時点）の更新
2022/9/16	・方法論別　プロジェクト登録及びクレジット認証の状況、登録プロジェクトの内訳 、認証クレジットの内訳（以上、第51回認証委終了時点）の更新
2022/10/31	・方法論別　プロジェクト登録及びクレジット認証の状況、登録プロジェクトの内訳 、認証クレジットの内訳（以上、第52回認証委終了時点）の更新
2023/1/13	・方法論別　プロジェクト登録及びクレジット認証の状況、登録プロジェクトの内訳 、認証クレジットの内訳（以上、第53回認証委終了時点）の更新
2023/3/15	・方法論別　プロジェクト登録及びクレジット認証の状況、登録プロジェクトの内訳 、認証クレジットの内訳（以上、第54回認証委終了時点）の更新
2023/4/24	・方法論別審査費用の推移を更新

Ｊ－クレジット制度事務局

みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社
サステナビリティコンサルティング第1部
TEL：050-3173-8916
（平日9:30～12:00、13:30～17:30）

E-mail：help@jcre.jp

Ｊ－クレジット制度ホームページ
https://japancredit.go.jp/